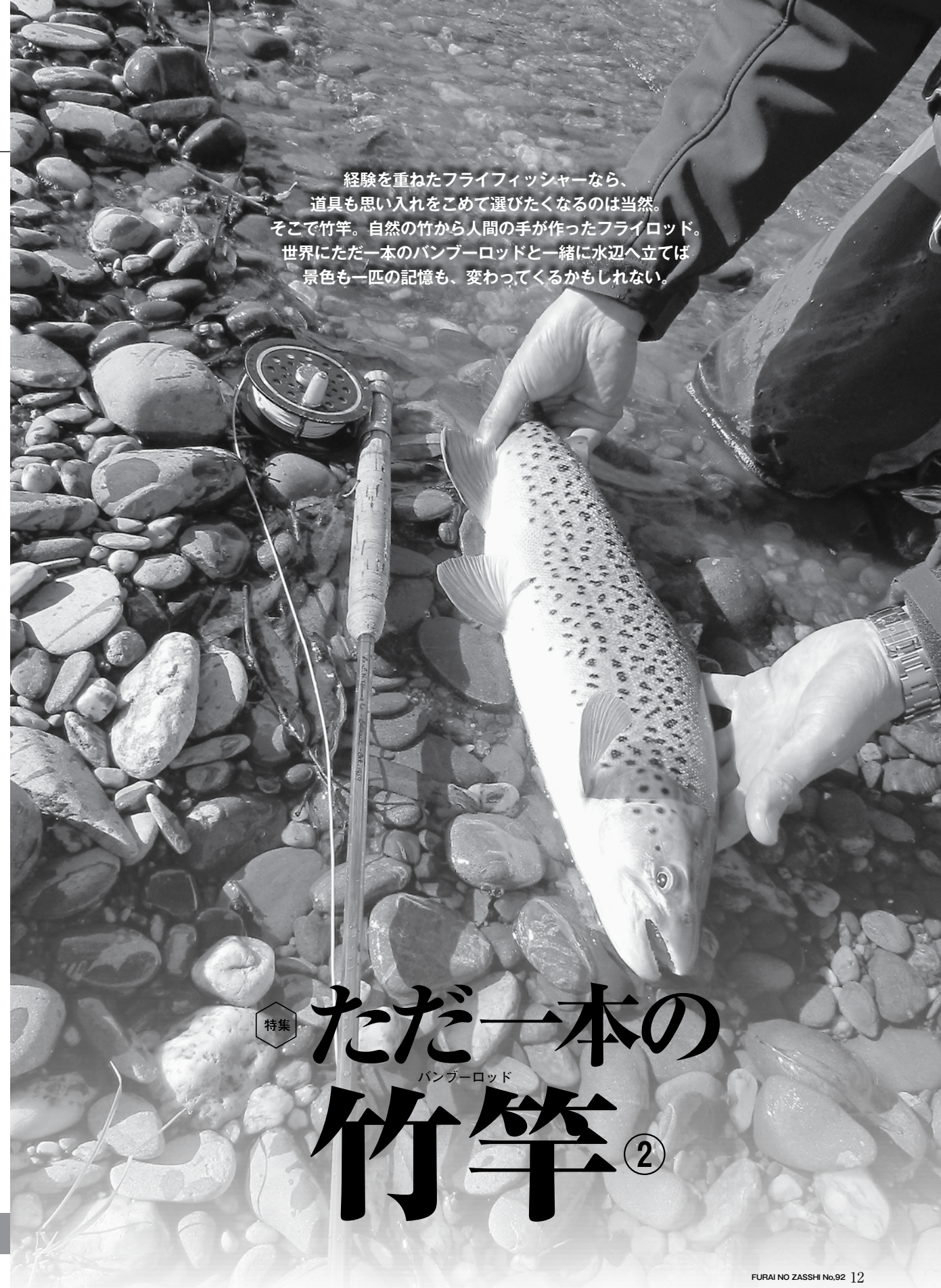


経験を重ねたフライフィッシャーなら、  
道具も思い入れをこめて選びたいのは当然。  
そこで竹竿。自然の竹から人間の手が作ったフライロッド。  
世界にただ一本のバンブーロッドと一緒に水辺へ立てば  
景色も一匹の記憶も、変わってくるかもしれない。

# ただ一本の バンブーロッド 竹竿<sup>②</sup>

特集



インタビュー①

## 自分がどれだけ満足できるかを考えたとき、 バンブーロッドという道筋がひとつ見えてくる

◎ゲストⅡ  
山城良介

やましろりょうすけ／つるや釣具店店主

●東京のつるや釣具店さんがハンドクラフト展を主催して今年で22回目。来場者は毎年増えて、今年も3日間で約2000人が会場を訪れた。  
ハンドクラフト展の目玉はなんといっても全国のバンブーロッドビルダーが一堂に集まり、ユーザが実際に竹竿を手にとってビルダーと話もできることだ。

日本でもっとも早くからバンブーロッドを取り扱っているつるや釣具店の山城さんに、バンブーロッドの楽しみと、選び方のコツと覚悟(?)を伺った。

―ハンドクラフト展が始まった約20年前と比べると、現在はバンブー

ロッドに関する情報がおそろしく増えています。竹竿をとりまく事情は変わっていますか。

山城 ますユーザにとっては、以前は見たくても物を見られなかったのが、今はネットで写真を見られたり、色々な情報を仕入れられます。竹竿の特徴も真竹や淡竹、トンキン等々、形状も五角、四角。それに中空かどうか。そういう工夫がこの10年ですごく増えました。工夫するのはいいことです。

でもたとえは中空で総重量は軽くなったとしても、手で持ったときに本当に軽く感じるかと

うかは別です。竹の特徴である粘りを、中空にしたために失う場合もあります。その情報に本当はどんな意味があるかが問われています。大事なのは、あふれている情報のごなし方です。情報をため込みすぎて分からなくなっちゃうのはい方で、値段が高いのがいいと思ったり、その逆だったり、知名度だ

たり宣伝の力だったり。竿の本来の魅力とは違う要素に左右されて選んでしまう。その結果で満足できればそれはそれでいいんですが。

―あらためてフライフィッシングでは、なぜ竹竿、なのでしょう。山城 機能で言えば、最新鋭のカーボングラファイトロッドの方が、より軽くて飛ばしやすくメンテナンフリー、修理もラク。全体で考えたら有利に決まっています。でもわざわざフライフィッシングをやるんですから、機能だけで比較するものじゃあない。

自分自身がどれだけ満足できるか、どれだけ日常からはなれて気持ちよくなるか、ホツとする部分を作れるかが大切。フライフィッシャーは、この竿にこのリールをつけて、この毛鉤を結んでこういうふうについたら楽しいだろうな、とときめくわけです。この毛鉤でこんな釣り方をしたいから、リーダーシステムはこうして、だったらそれには竹竿が似合うだろう、という発想です。ちょっとしたきっかけで釣り人はわくわくできるものです。

今はグラファイト製のロッドは、フライロッドですらたくさんあります。おそろしく選択肢が多い中で、自分の満足度を考えたときに、バンブーロッドという道筋がひとつあるのかもしれない。バンブーロッド

photo T.Hirano

特集

## ただ一本の竹竿



山城良介氏／つるや釣具店にて

が。